

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書 (23)

県営中山間地域総合整備事業(一般型)【農山漁村交付金】西之表地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

ひろかけいせき
広掛遺跡

2011年3月

鹿児島県西之表市教育委員会

序 文

本報告書は、県営中山間地域総合整備事業西之表地区に伴い、西之表市教育委員会が発掘調査を実施した広掛遺跡の記録です。種子島は特に近年の発掘調査において、旧石器時代から縄文時代のはじまりにかけての貴重な古い遺跡が相次いで発見されており、先史時代から人々が住みやすい環境のもとにあったことが伺われます。

今回発掘調査を行った広掛遺跡は、西之表市の古田地区に所在します。古田地区は低平な種子島において標高が高い地区であり、地区内には種子島で最初に縄文時代草創期の土器片が発見された二本松遺跡などがあります。発掘調査の結果、これまで種子島において報告例の少ない縄文時代中期の遺物が出土し、種子島の縄文時代中期文化を探る貴重な資料のひとつとなりました。

本報告書が学術的文献として活用されるのはもとより、市民の文化財保護に対する意識高揚の一助として十分活用されることを念じています。

最後に、本報告書を刊行するにあたり、ご協力いただきました鹿児島県教育庁文化財課及び同県立埋蔵文化財センターをはじめ、整理作業でご指導いただいた鹿児島県歴史資料センター黎明館・熊本大学埋蔵文化財調査室・鹿児島大学埋蔵文化財調査室の諸先生方及び古田地区の関係者、熊毛支庁農村整備課、ならびに発掘調査に従事された皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

西之表市教育委員会教育長 有島正之

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひろかけ いせき							
書名	広掛遺跡							
副書名	県営中山間地域総合整備事業(一般型)【農山漁村交付金】西之表地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	23							
編集者名	沖田純一郎							
編集機関	西之表市教育委員会							
所在地	〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地							
発行年月日	2011年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
広掛遺跡	鹿児島県	462136	123	30°	131°	20090619	227 m ² 750 m ²	県営 中山間 地域総合 整備事業
	西之表市			39′	01′	20090819		
	古田			21″	32″	緊急調査 20091005		
	広掛					20100301		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
広掛遺跡	散布地	縄文時代中期		土坑 1基		土器類 貝殻条痕文土器片 無文土器片 石器類 磨石・敲石類		

例 言

1. 本書は、県営中山間地域総合整備事業（一般型）【農山漁村交付金】西之表地区に伴う広掛遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、鹿児島県熊毛支庁農村整備課の委託を受け、西之表市教育委員会が実施した。
3. 本書に用いたレベル数値は、熊毛支庁農村整備課が作成した地形図に基づく海拔高である。
4. 本書の遺物番号は全て通し番号で、本文及び挿図・図版番号と一致する。
5. 発掘調査における測量・実測は沖田，和田が行った。発掘調査における写真撮影は主に沖田が行った。
6. 本書の執筆と編集は沖田が行った。
遺物の拓本・実測は西之表市埋蔵文化財整理作業員である荒井美佳子・藤本まゆみ・古元真知子・石堂久美子が行った。図面及び実測図のトレースは同上の方々が行った。なお、出土遺物の一部の実測・トレースを（株）トライ社に委託した。
7. 写真図版の遺物撮影は、（株）トライ社及び菊池スタジオ菊池一文氏と沖田が行った。
8. 発掘調査及び整理作業に関して、鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター・鹿児島県歴史資料センター黎明館・鹿児島大学埋蔵文化財調査室・熊本大学埋蔵文化財調査室の指導，協力を得た。
9. 出土遺物は西之表市教育委員会が保管する。

目 次

序文

報告書抄録

例言

第1章 調査の経過	1	第2節 層位	11
第1節 調査に至る経緯	1	第4章 調査の結果	13
第2節 調査の組織	1	第1節 確認調査	13
第3節 調査の経過	4	第2節 緊急発掘調査	13
第2章 遺跡の位置と環境	5	●遺構	13
第1節 遺跡の位置	5	●遺物	13
第2節 遺跡の環境	5	第5章 調査のまとめ	43
第3章 発掘調査の概要	11		
第1節 調査の概要	11		

挿図目次

第1図 調査地位位置図	3	第16図 出土土器(3)	25
第2図 広掛遺跡と周辺遺跡図	6	第17図 出土土器(4)	26
第3図 確認調査トレンチ配置図	8	第18図 出土土器(5)	27
第4図 確認調査トレンチ配置図・緊急発掘調査地	10	第19図 出土土器(6)	28
第5図 南側土層断面	12	第20図 出土土器(7)	29
第6図 緊急発掘調査対象地	15	第21図 出土土器(8)	30
第7図 1号上坑	16	第22図 出土土器(9)	31
第8図 全遺物出土状況	17	第23図 出土土器(10)	32
第9図 全土器出土状況	18	第24図 出土土器(11)	33
第10図 口縁部出土状況	19	第25図 出土土器(12)	34
第11図 胴部出土状況	20	第26図 出土土器(13)	35
第12図 底部出土状況	21	第27図 出土土器(1)	36
第13図 全石器出土状況	22	第28図 出土土器(2)	37
第14図 出土土器(1)	23	第29図 出土土器(3)	38
第15図 出土土器(2)	24		

表目次

第 1 表	広掛遺跡周辺遺跡地名表	7
第 2 表	広掛遺跡確認調査トレンチ一覧表	9
第 3 表	土器観察表(1)	39
第 4 表	土器観察表(2)	40
第 5 表	土器観察表(3)	41
第 6 表	石器観察表	42

写真図版

図版 1	緊急発掘調査状況	46	図版 11	出土土器	56
図版 2	土層断面図	47	図版 12	出土土器	57
図版 3	土坑検出状況	48	図版 13	出土土器	58
図版 4	緊急発掘調査遺物出土状況	49	図版 14	出土土器	59
図版 5	遺物出土状況	50	図版 15	出土土器	60
図版 6	遺物出土状況	51	図版 16	出土土器	61
図版 7	遺物出土状況・調査作業員	52	図版 17	出土土器	62
図版 8	出土土器	53	図版 18	出土土器	63
図版 9	出土土器	54	図版 19	出土土器	64
図版 10	出土土器	55	図版 20	出土石器	65

第I章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

鹿児島県農政部熊毛支庁農林水産部農村整備課整備係（以下農村整備課）は西之表地区内において中山間地域総合整備事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下県文化財課）に照会した。

これを受けて、県文化財課が平成21年1月に埋蔵文化財分布調査を実施した。その結果、事業区内に広掛遺跡他、数箇所遺跡が存在することが判明した。

広掛遺跡については、工事着工年度が平成21年度中の計画であったため、遺跡の取り扱いについて農村整備課と西之表市教育委員会社会教育課文化係（以下市社会教育課）は協議を行い、工事着工年度を考慮して緊急に事業対象地区内における遺跡の有無・時代・広がりを精査するため、平成21年6月に埋蔵文化財確認調査（以下確認調査）を西之表市教育委員会が調査主体となり実施した。確認調査の結果、事業対象地区内の一部に遺物包含層が確認され、遺跡の時代は縄文時代中期相当であることが判明した。調査結果をもとに、遺跡の取り扱いについて市社会教育課と農村整備課は再び協議を行い、事業計画等から遺跡を現状保存することは困難であり、よって対象地の緊急発掘調査を行い遺跡の記録保存を図ることとなった。緊急発掘調査は西之表市教育委員会が調査主体となり、工事着手日が迫っていたため、他の発掘調査業務を調整しながら、広掛遺跡の調査を最優先に行うものとし、平成21年10月より調査を開始した。

第2節 調査の組織

（広掛遺跡確認調査）

事業主体者	鹿児島県農政部 熊毛支庁農林水産部農村整備課整備係
発掘調査主体者	西之表市教育委員会
発掘調査責任者	西之表市教育委員会 教育長 有島 正之
発掘調査企画	西之表市教育委員会 社会教育課 課長 内田 節生 課長補佐 奥村 学
発掘調査担当	西之表市教育委員会 社会教育課 主査 沖田純一郎 主査 和田 正樹
発掘調査作業員	岩崎スミ子 岩崎良子 畑山ちえみ 馬場直美 上妻宗四朗 上妻美恵子 橋本 充 上別縄シヅ子 石井真二 下嶋信子 石井信子 織田初美 岩崎れい子 高尾野サキ子

（広掛遺跡緊急発掘調査）

事業主体者	鹿児島県農政部 熊毛支庁農林水産部農村整備課整備係
発掘調査主体者	西之表市教育委員会

発掘調査責任者 西之表市教育委員会 教育長 有島 正之
 発掘調査企画 西之表市教育委員会 社会教育課 課長 内田 節生
 課長補佐 奥村 学
 発掘調査担当 西之表市教育委員会 社会教育課 主 査 沖田純一郎
 主 査 和田 正樹

発掘調査指導 鹿児島県教育庁文化財課埋蔵文化財係

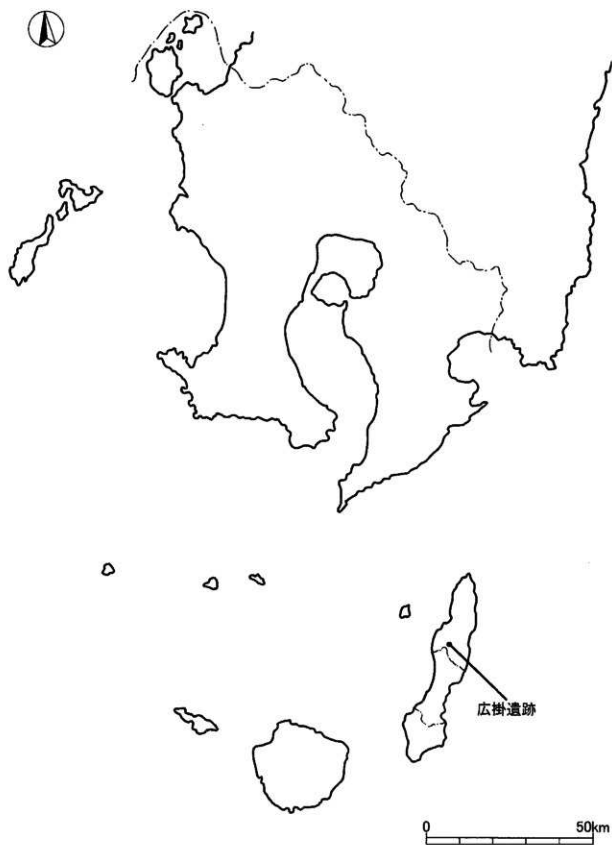
発掘調査作業員 岩崎良子 馬場直美 上妻宗四朗 上妻美恵子 橋本 充
 上別潤シヅ子 石井真二 下嶋信子 石井信子 織田初美
 岩崎れい子 高尾野サキ子 荒井美佳子 藤本まゆみ
 石堂久美子 古元真知子

(整理作業)

事業主体者 鹿児島県農政部 熊毛支庁農林水産部農村整備課整備係
 整理作業主体者 西之表市教育委員会
 整理作業責任者 西之表市教育委員会 教育長 有島 正之
 整理作業企画 西之表市教育委員会 社会教育課 課長 内田 節生
 課長補佐 奥村 学
 主 査 和田 正樹

整理作業担当 西之表市教育委員会 社会教育課 主 査 沖田純一郎
 整理作業指導 鹿児島県教育庁文化財課埋蔵文化財係
 鹿児島県立埋蔵文化財センター
 鹿児島県歴史資料センター黎明館
 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
 熊本大学埋蔵文化財調査室

整理作業員 魚崎真理子 中村さえ子 河野賀奈子 大河 歩 橋口 茜
 岩坪舞末子 宮園千鶴 高橋美徳 江口佳奈



第1図 調査地位位置図

第3節 調査の経過

広掛遺跡の確認調査は平成21年6月から8月まで行った。調査は遺跡エリア内の事業対象予定地に地形等を考慮しながら任意にトレンチを設定し、表土を重機で除去後、人力にて掘り下げを行った。各トレンチにおいては土層の堆積状況、遺物・遺構の有無などを記録し写真撮影を行った。またトレンチ内で出土した遺物については、番号を付け、平板測量・レベルを計測し取り上げを実施した。トレンチは遺物の出土量や土層の堆積を観察するために拡張したり、深掘りを行ったものもある。設置したトレンチ数は22箇所である。

緊急発掘調査は平成21年10月から行った。確認調査の結果をもとに工事対象地内における遺物包含層残存地のみについて発掘調査を行った。調査は対象地に5mグリットを設置し、重機で表土を除去後、人力で掘り下げを行い、遺物・遺構の検出を行いながら進めた。

調査地は樹根が多数所在し、伐根作業やその後の処理作業に時間を割き、また天候などの影響もあり、遺物取上げ・写真撮影・土層断面図作成・遺構実測図面作成・確認調査トレンチ埋め戻しなど発掘調査に係る全ての業務が終了したのは平成22年2月末日であった。整理作業は遺物取上げ後、随時遺物を種子島開発総合センター隣接の埋蔵文化財整理作業室に持ち帰り、洗浄・注記作業等を行い、その後同一番号内での遺物の接合や図面整理、主な遺物の拓本・実測・トレース作業など整理作業の基礎作業を行った。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

種子島は本土最南端の佐多岬から大隅海峡を隔てた、東南約40kmの海上にあり、南北52km、東西12kmの北北東から南南西に細長く伸びた、最高標高でも282.3mしかない低平な細長い島で、地形は丘陵性の山地、海岸段丘、河川付近の沖積低地からなり、西方に位置する屋久島とは対照的である。また、西海岸部には比較的砂丘が発達しているが、東海岸は断崖に富んでいる。行政区は北から西之表市・中種子町・南種子町と1市2町からなる。

広掛遺跡は西之表市の中央部古田地区の標高約133mの台地上に位置する。古田地区は西之表でもひととき標高の高い地である。調査前は山林であったが、工事準備のため樹木が伐採され、樹根がいたるところに散在していた。遺跡の周囲を巡るように川が流れており、遺跡は穏やかに傾斜する台地の先端部に形成されている。

種子島の遺跡について述べると、旧石器時代(約3万年前)の国内でも非常に貴重な生活跡遺跡として横峯遺跡(南種子町)、立切遺跡(中種子町)があり、近年の調査で話題になった国内最古級の落し穴が検出された大津保畑遺跡、今平・清水遺跡(いずれも中種子町)など非常に注目を浴びる旧石器時代の遺跡の報告例が増加してきている。その後続く縄文時代では、奥ノ仁田遺跡(西之表市)の調査によって縄文時代草創期の遺跡が初めて確認され、その後鬼ヶ野遺跡(西之表市)や三角山遺跡(中種子町)の調査で縄文時代草創期の住居址や多数の遺構、遺物が発見され注目を浴びている。その後の縄文時代早期・前期の遺跡も島内各地で確認されているが、中期の遺物の報告例は少ない。後期の遺跡は島内各地で確認されており、納曾式土器の標識遺跡である納曾遺跡(西之表市)、特異な配石遺構が多数検出された藤平小田遺跡(南種子町)多数の磨石・石皿が出土し住居址が検出された浅川牧遺跡(西之表市)等がある。弥生時代から古墳時代の遺跡は、下剥峯遺跡・田ノ脇遺跡・馬毛島椎ノ木遺跡・上能野貝塚(西之表市)や、多数の人骨と貝製品が出土し、遺跡及び出土品が国指定文化財となった広田遺跡(南種子町)、覆石墓・人骨が出土した島ノ峯遺跡(中種子町)などあり、中期頃の土器片が出土する遺跡も確認されているが、埋葬址が多いのが特徴的である。種子島において、弥生時代以降の遺跡は縄文時代の遺跡に比べ極端に少ないため、未解明な点が多いのが現状である。

第2節 遺跡の環境

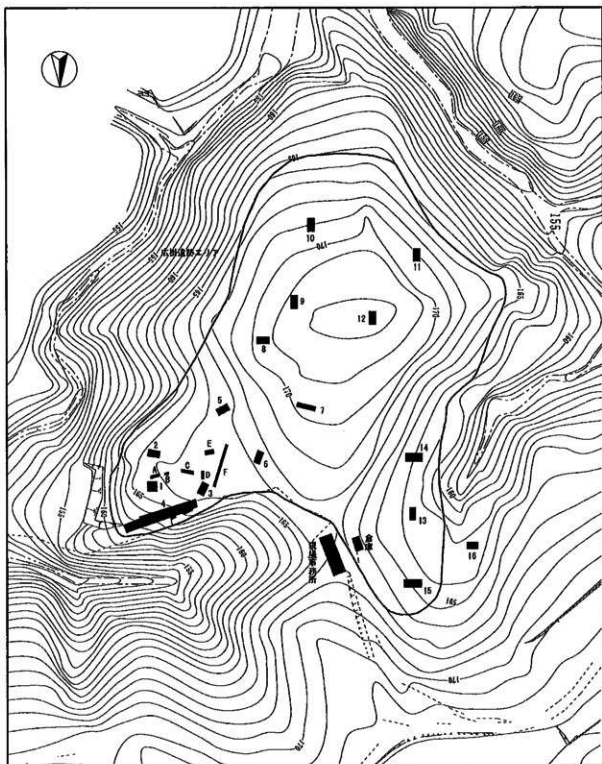
広掛遺跡は西之表市のほぼ中央部古田地区に所在する。古田地区は低平な種子島にあって、ひととき標高が高い地である。周辺はほぼ山林で占められ、わずかな低地に田や畑が散在する。また茶畑が非常に多いのが古田地区の大きな特徴である。古田地区の遺跡は西之表市の東西海岸部等と比べ非常に少ないが、二本松遺跡(古田二本松)など縄文時代の古い遺跡が所在することが特筆される。台地の先端部や周辺を小川で囲まれている台地などには遺跡の所在が十分に考えられ、今後の調査によって遺跡数は増加する可能性が充分考えられる。



第2図 広掛遺跡と周辺遺跡図

第1表 広掛遺跡周辺遺跡地名表

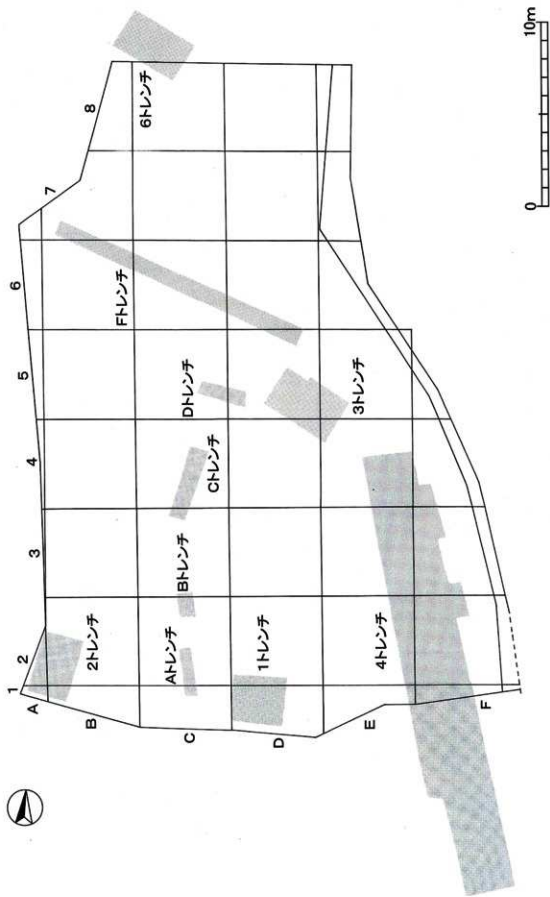
番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	広掛	古田広掛	縄文中期	平成21年発掘調査
2	古田城跡	古田村之町	歴史	
3	二本松	古田二本松	縄文草創期	
4	中割	中割万波	弥生	
5	下ノ平	立山	縄文	平成22年確認調査予定
6	中園B	立山	縄文	平成22年確認調査予定
7	中園A	立山	縄文	平成22年確認調査予定
8	長崎	立山御牧	縄文	
9	尾呂ノ平	立山御牧	縄文	
10	奥嵐	立山植松	縄文草期・後期	平成5年発掘調査
11	奥ノ仁田	立山植松	縄文草創期	平成5年発掘調査 出土品は県文化財指定
12	九郎三エ門	立山芦野	縄文	
13	芦野	立山芦野	旧石器・縄文早期	平成16年発掘調査
14	東前平	安城大野	縄文早期	平成14・15年発掘調査
15	鯨ノ刃	安城人野	縄文早期	平成17・18年発掘調査
16	長迫	安城川脇	縄文	平成16年試掘調査
17	日守	安城川脇	縄文早期	平成7・8年発掘調査
18	日守B	安城川脇	縄文早期	平成6年確認調査
19	日守C	安城川脇	縄文早期	平成6年確認調査
20	三本松	安城川脇	縄文早期	平成17・18・19年発掘調査
21	鬼ヶ野	安城上之町	縄文草創期	平成13年発掘調査 出土品は県文化財指定
22	鬼ヶ野B	安城上之町	縄文	平成12年確認調査
23	鬼ヶ野C	安城上之町	縄文	平成12年確認調査
24	通利山	安城下之町	縄文	平成15年試掘調査
25	仮屋園	安城下之町	縄文	平成19年確認調査
26	二俣野	安城平山	縄文早期	平成15年発掘調査
27	牧野	安城平山	縄文早期	平成16年発掘調査
28	牧野B	安城平山	縄文草創期・早期	
29	浅川牧Ⅱ	現和浅川	縄文早期・前期・後期	昭和52年発掘調査
30	浅川牧Ⅰ	現和浅川	縄文早期・後期・晩期	昭和54年発掘調査



第3図 確認調査トレンチ配置図

第2表 広掛遺跡確認調査 トレンチ一覧表

番号	トレンチ名	調査面積 (㎡)	掘下げ深 さ (cm)	最下層	遺物	遺構	遺物出土の深さ (地表面から)
1	1トレンチ	9	110	VII層 明ベージュ色ローム	○	×	80 (遺物は使用痕 がなく自然曝)
2	2トレンチ	10	74	VII層 明ベージュ色ローム	×	×	
3	3トレンチ	8.6	83	VI層 暗ベージュ色ローム	○	×	25
4	4トレンチ	59	145	VII層 明ベージュ色ローム	○	○	35 (遺構は近代の 炭竈)
5	5トレンチ	5.8	100	VII層 明ベージュ色ローム	×	×	
6	6トレンチ	9	130	VI層 暗ベージュ色ローム	○	×	63
7	7トレンチ	8	77	VI層 暗ベージュ色ローム	×	○	(遺構は近代の 炭竈)
8	8トレンチ	8	92	VII層 明ベージュ色ローム	×	×	
9	9トレンチ	8	70	VI層 暗ベージュ色ローム	×	×	
10	10トレンチ	10	207	IX層 AT火山灰	×	×	
11	11トレンチ	10	200	岩盤	×	×	
12	12トレンチ	10	165	X層 乳茶褐色ローム	×	×	
13	Aトレンチ	12.5	30	IV層 アカホヤ	○	×	20
14	Bトレンチ	1.7	37	IV層 アカホヤ	×	×	
15	Cトレンチ	4	30	IV層 アカホヤ	○	×	25
16	Dトレンチ	2.5	60	IV層 アカホヤ	○	×	30
17	Eトレンチ	3	46	IV層 アカホヤ	○	×	25
18	Fトレンチ	14.5	60	IV層 アカホヤ	○	×	24
19	13トレンチ	7.5	90	岩盤	×	×	
20	14トレンチ	8	×	×	×	×	蜂の巣が有り 調査回避
21	15トレンチ	15	×	×	×	×	蜂の巣が有り 調査回避
22	16トレンチ	3	50	II層 黒色土層	×	○	15 (遺構は近代の 炭竈関連)



第4図 確認調査 トレンチ配置図・緊急発掘調査地

第三章 発掘調査の概要

第1節 調査の概要

(確認調査)

確認調査対象地は遺跡エリア内における工事計画地であるが、調査対象面積が広大な点や、現況が山林であり又樹根が各所に散在していたため、調査トレンチを設定できる場所が限定されてしまった。地形や遺物の出土状況等を考慮して最終的には22箇所のトレンチを設置した。調査は表土を重機で除去後、人力で掘り下げ遺物、遺構の精査を行った。各トレンチごとに土層断面の記録・遺物出土状況・写真撮影を行った。出土した遺物については、平板測量・レベルを計測し取上げを行った。分布調査では縄文晩期の遺物と思われるものを採集していたが、確認調査で出土した土器片は縄文中期に相当するものと思われる。調査面積は約140㎡である。

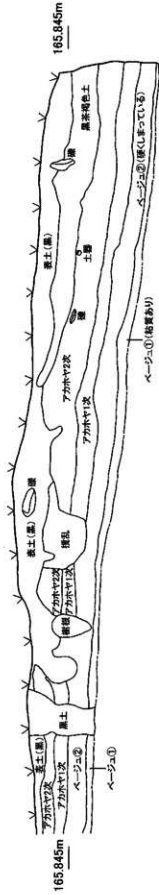
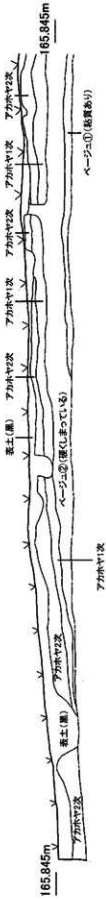
(緊急発掘調査)

緊急発掘調査は、工事計画地における遺物包含層残存地のみを行った。調査対象地区内に5mグリットを設置し、表土を重機で除去後人力にて掘り下げを行った。調査の結果、縄文中期相当の遺物が出土したが、土層の堆積が不安定な地もあったことから、土層を確認しながら慎重に人力で掘り下げを行った。主な出土遺物は出土状況を写真に撮り、番号を付け平板測量・レベル計測して取上げを行った。検出した遺構については写真撮影後、平面・断面実測図を作成し記録を行った。土層の堆積状況については、調査区中央部の東西ベルト部分の土層断面を実測し図化した。調査面積は約750㎡である。

第2節 層位

土層は場所により、攪乱及び削平を受け欠落している層も確認されたが、基本的な堆積は下記のとおりである。

- | | | |
|-------|-------------------|--------------------|
| I層 | 表土 (黒色) | |
| II層 | 黒茶褐色土 | 「遺物包含層」 |
| III層 | 黄茶褐色土 | 「遺物包含層」 |
| IV層 | 橙色火山灰土 (アカホヤ火山灰) | 場所によって1次・2次堆積物に分層可 |
| V層 | ベージュ色ローム土 | |
| VI層 | 暗ベージュ色ローム土 | |
| VII層 | 明ベージュ色ローム土 | |
| VIII層 | 乳茶褐色ローム土 | |
| IX層 | 黄橙色火山灰土 (AT 火山灰土) | |
| X層 | 乳茶褐色ローム土 | |
| XI層 | 明ベージュ色ローム土 | |
| | | XII層 岩盤 |



第5図 南側土層断面

第IV章 調査の結果

第1節 確認調査

確認調査の結果遺物は1・3・4・6・A・C・D・E・Fトレンチより、土器片及び石器類が出土した。(番号を付して取上げた遺物56点、表採品・一括取上げ遺物を含めると約150点)遺構は表層下位より近代の炭窯など炭焼きに関する土坑などが確認された。

出土した遺物は縄文時代中期相当と思われる、遺物が出土する深さは非常に浅く、表土から約30cm～50cm下位からの出土である。また工事対象地内の大部分は近代の削平等により表土下位は攪乱を受けていることが確認された。遺物の出土状況や土層の堆積などから工事対象地内における遺物包含層は台地の東側先端部分に残存していることが判明した。

第2節 緊急発掘調査

確認調査の結果をもとに、工事対象地内における遺物包含層残存地である東側の台地先端部の発掘調査を実施した。調査対象地内に5mグリットを設置し、表土を重機で除去後、人力で掘り下げを行った。調査対象地内には樹根が散在した掘り下げの過程においても樹根が地中深くまで埋没しており、掘り下げの障害となった。

調査の結果遺構が1基検出され、主に縄文時代中期の土器片や石器類が出土した。調査地内においては土層の堆積が不安定な地もあり、一部深掘りを行い土層の堆積状況を精査しながら掘り下げを行った。以下、遺構・土器・石器について概略を記述する。

●遺構

土坑が1基検出された。長軸約115cm×短軸約55cmの大きさで舌状を呈している。掘り込みの深さは地表面から約40cmである。土坑内には地表面から25cmの深さの所で幅約5cm程の礫が1点出土したが、この礫には使用痕などは確認されなかった。埋土は黒褐色である。検出面から縄文中期に相当するものと思われる。

●遺物

縄文時代中期相当の土器片・石器類が出土している。番号を付して取り上げた遺物は313点であった。

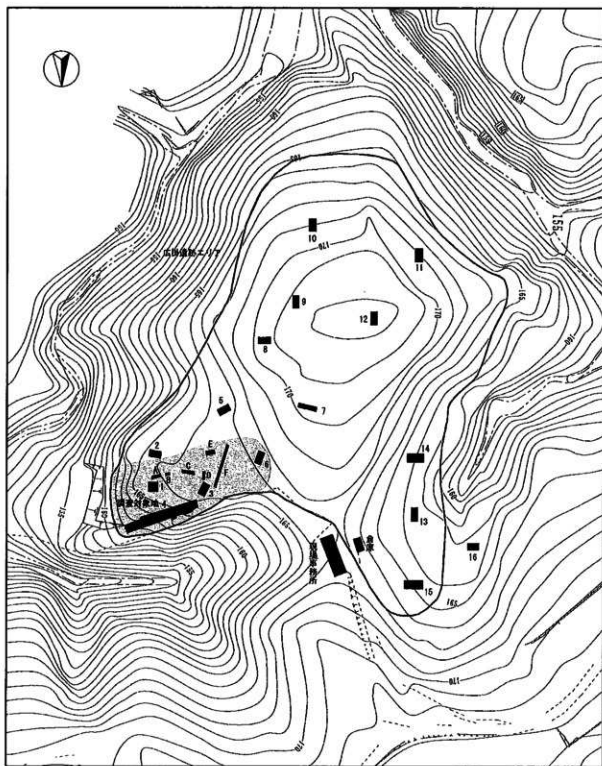
(土器)

出土遺物の主体は土器で、外面内面に貝殻条痕を施しているものである。土器片は小片が多いが、全体の個体数はそれほど多くはないと思われる。口縁部は若干キャリバー状を呈するものや、急角度で大きく波状になるものがある。器壁は非常に薄く外面内面ともに精巧に調整しているものや、厚くゴツゴツしており外面内面調整が粗いものなどがある。また胎土から在地のものと、鹿児島本土から持ち込まれたものが含まれている。現時点では出土した土器片は縄

文時代中期に相当するものと思われるが、出土層や施文などから若干の時期差があると考えられる。

(石器)

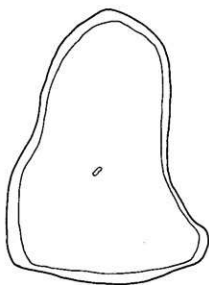
土器の出土に比べ、石器類の出土は非常に少ない。剥片類、磨石・蔽石類、台石・石皿類などが出土した。



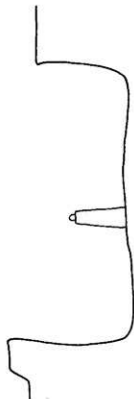
第6図 緊急発掘調査対象地

0 50m

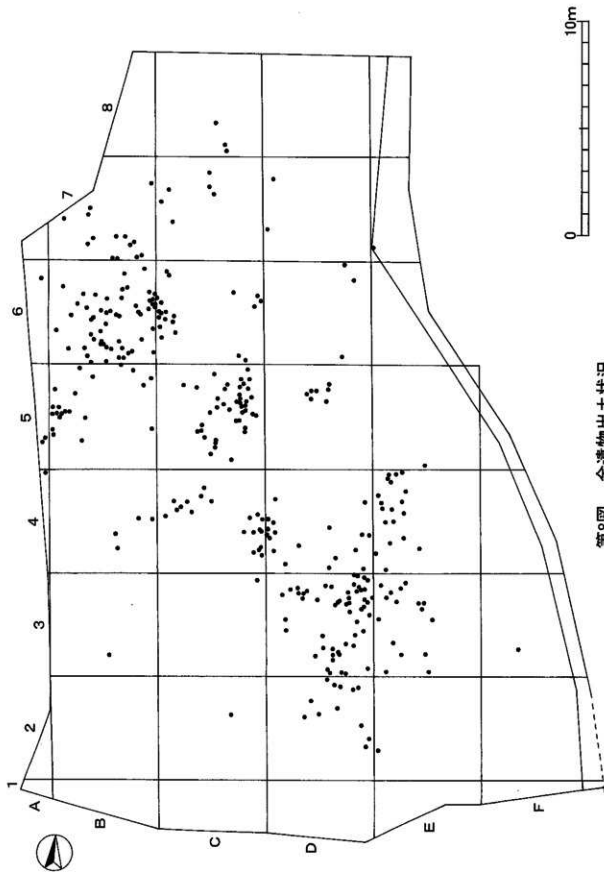
166.45m



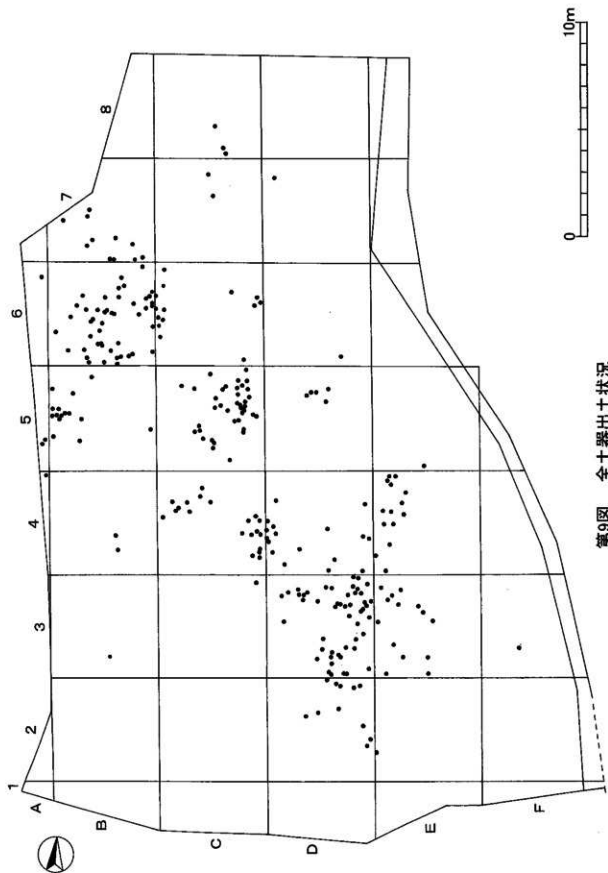
166.45m



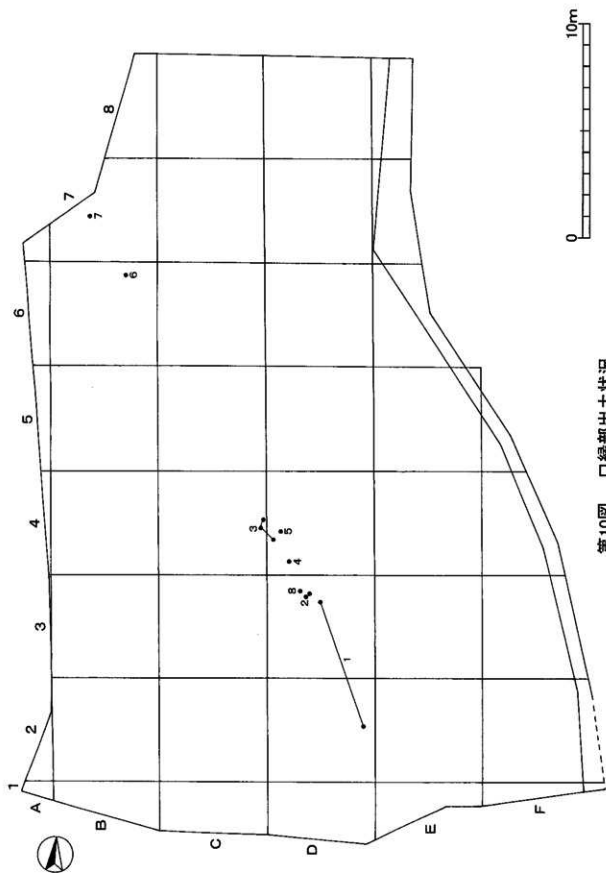
第7图 1号土坑



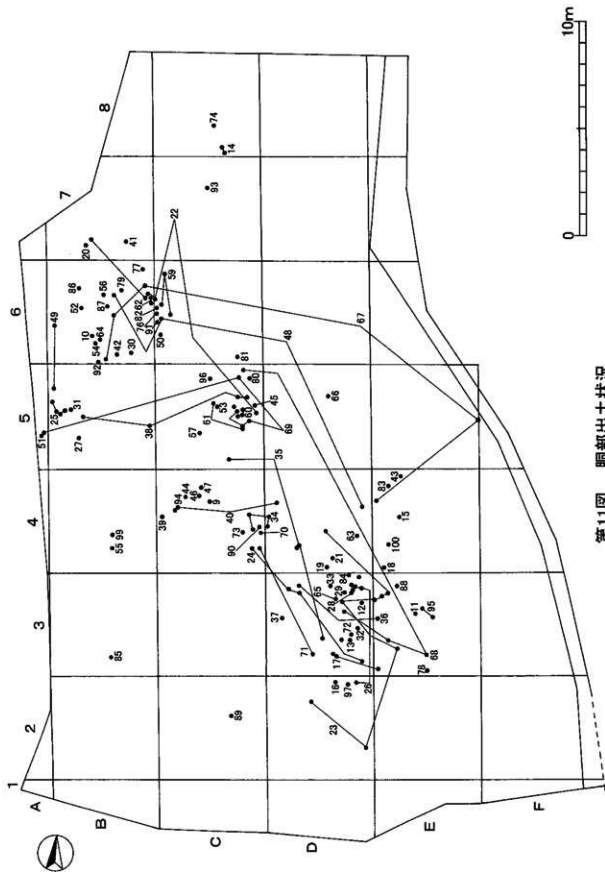
第8図 全遺物出土状況



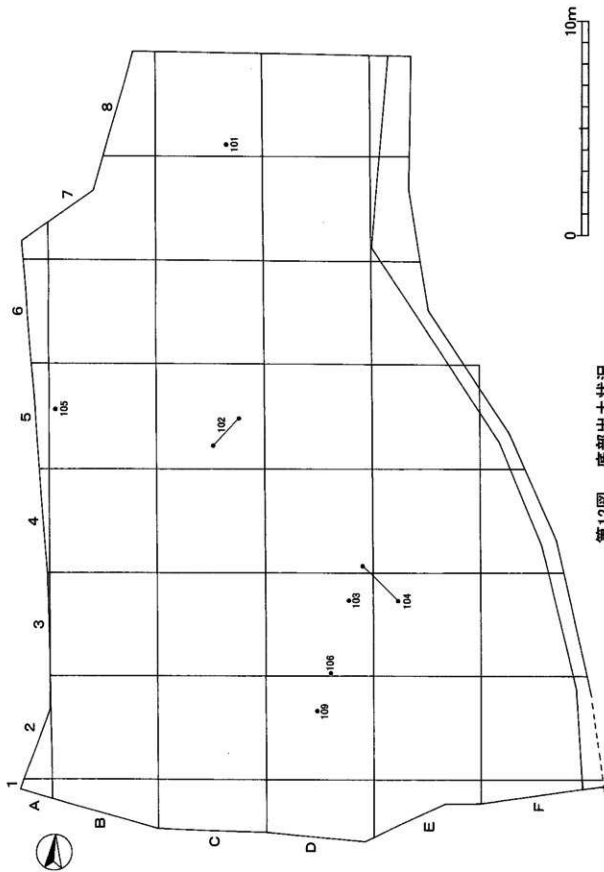
第9図 全土器出土状況



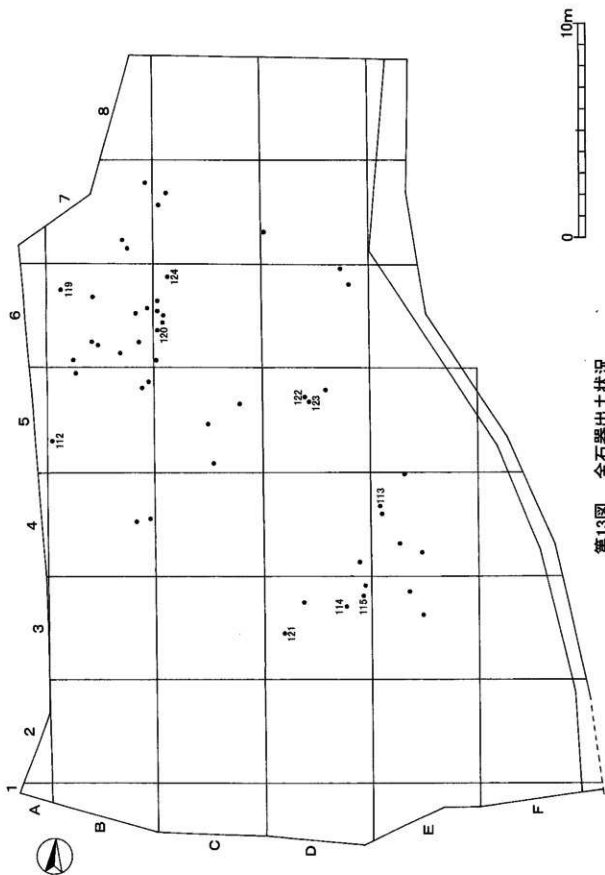
第10圖 口縁部出土状況



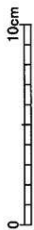
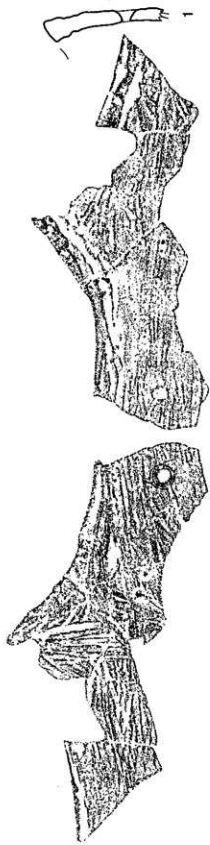
第11圖 胴部出土状況



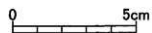
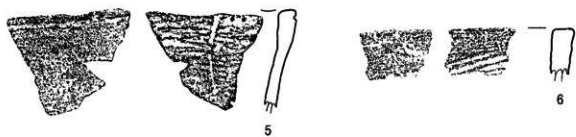
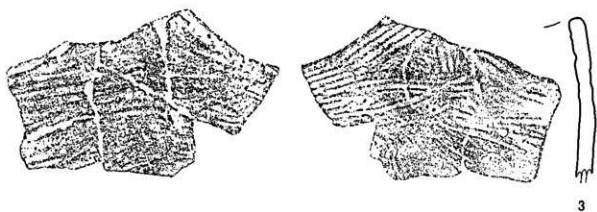
第12図 底部出土状況



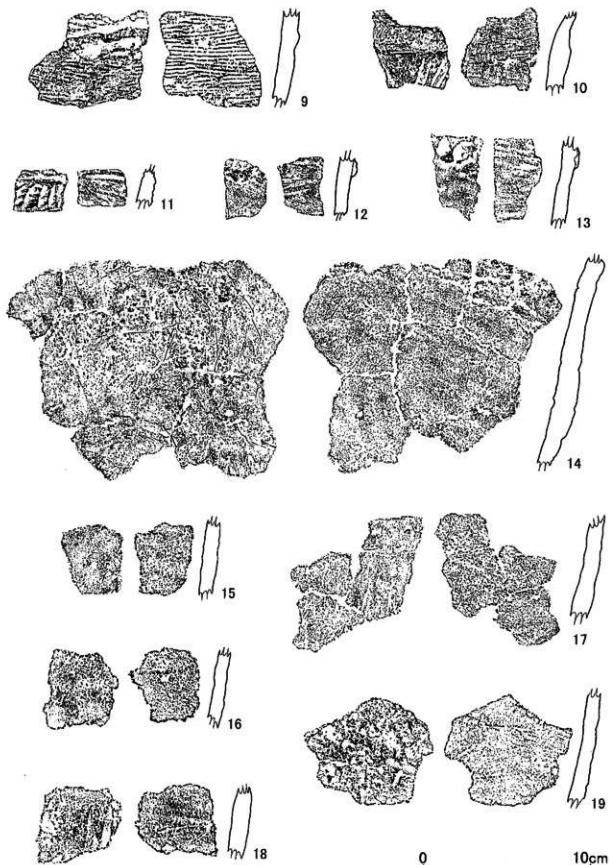
第13圖 全石器出土狀況



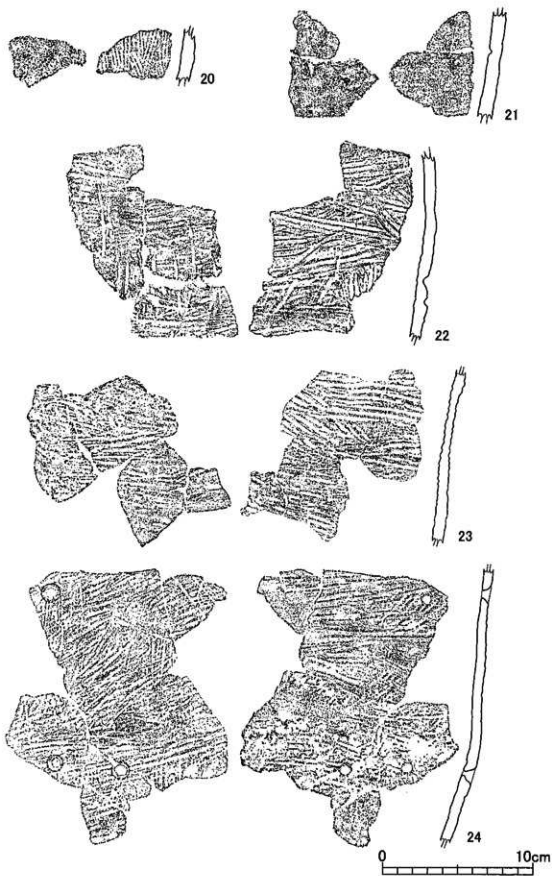
第14图 出土土器(1)



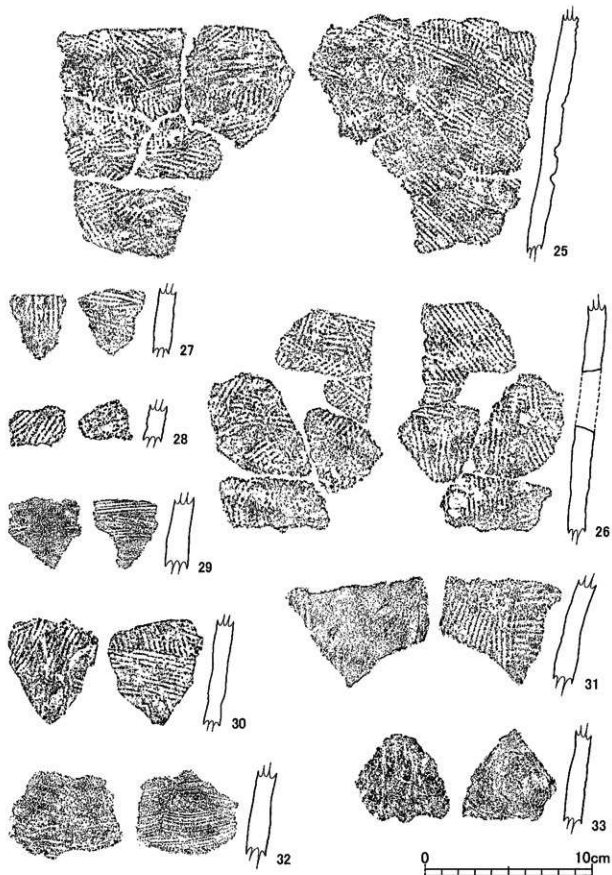
第15圖 出土土器(2)



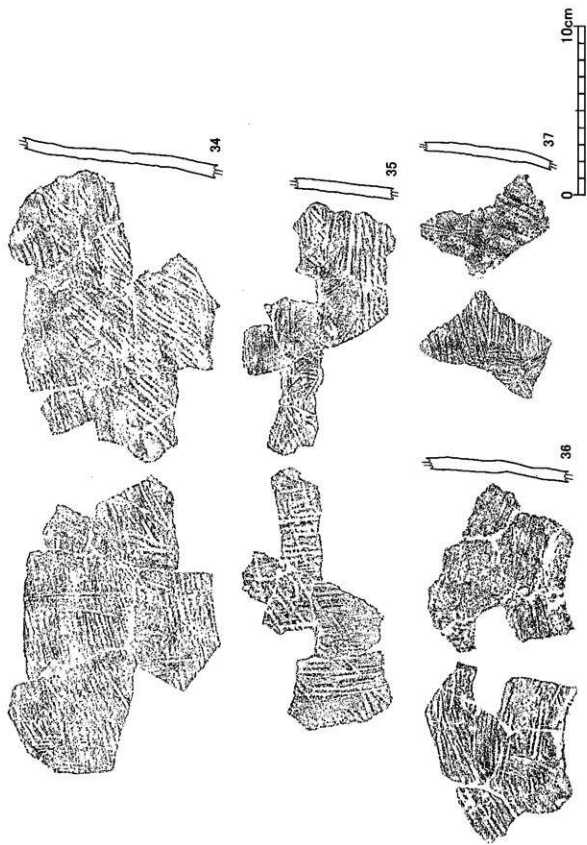
第16图 出土土器(3)



第17图 出土土器(4)



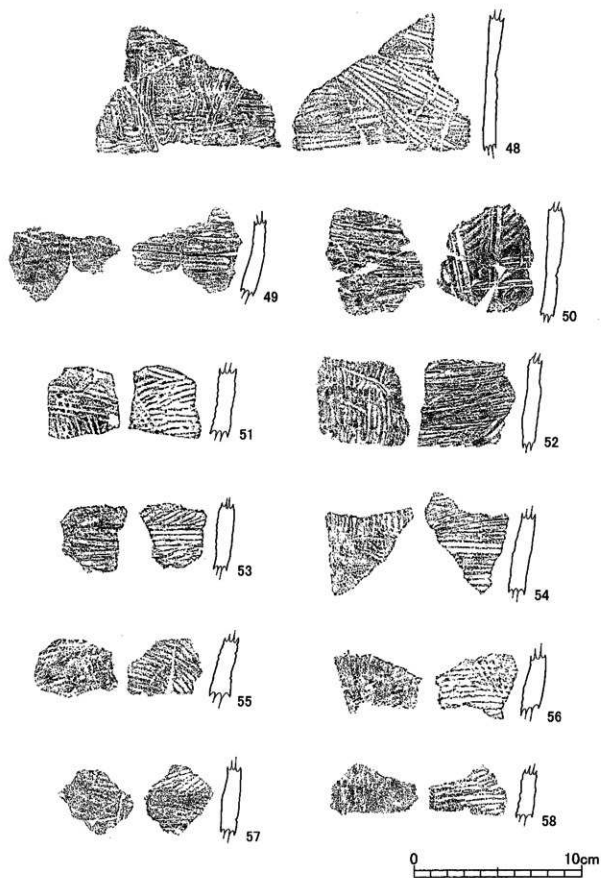
第18图 出土土器(5)



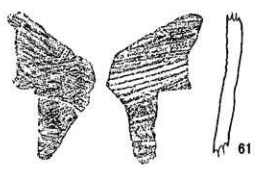
第19圖 出土器(6)



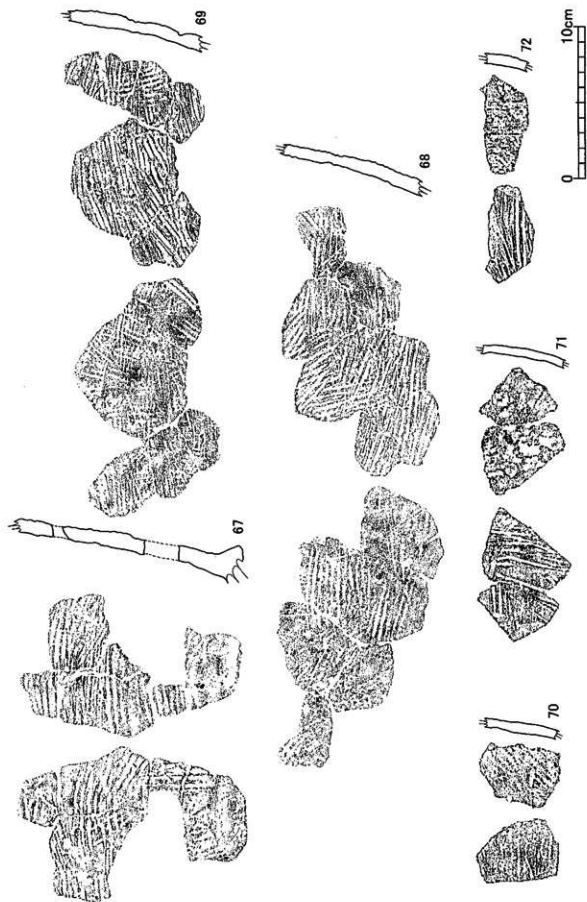
第20圖 出土土器(7)



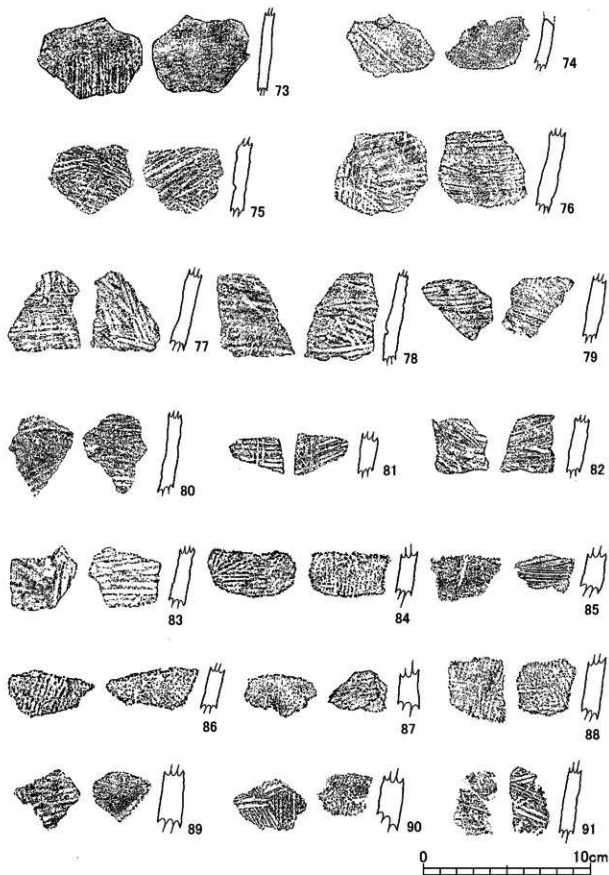
第21图 出土土器(8)



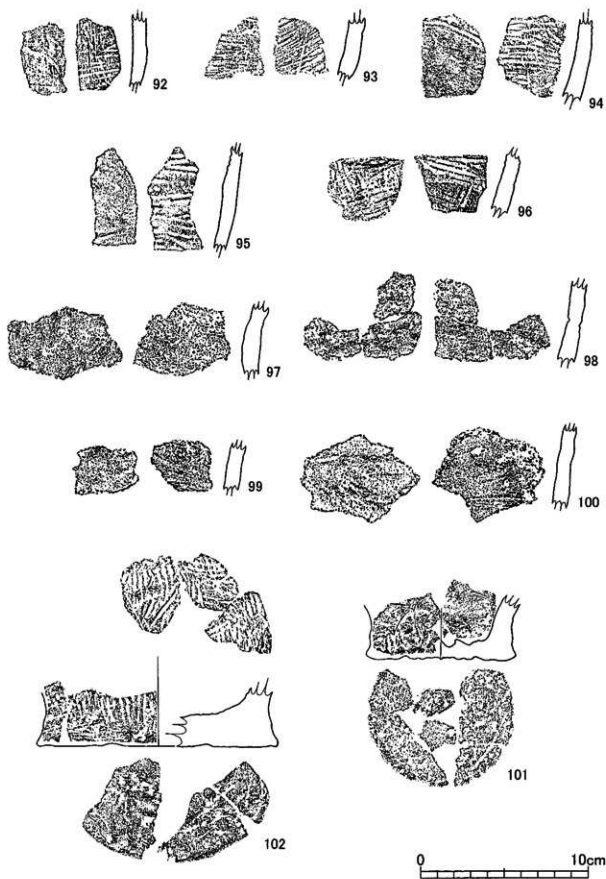
第22圖 出土土器(9)



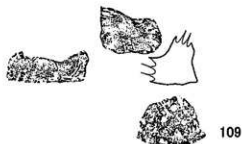
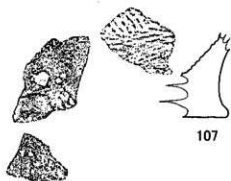
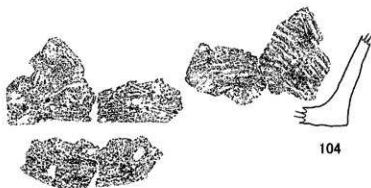
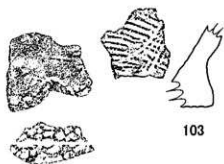
第23圖 出土器(10)



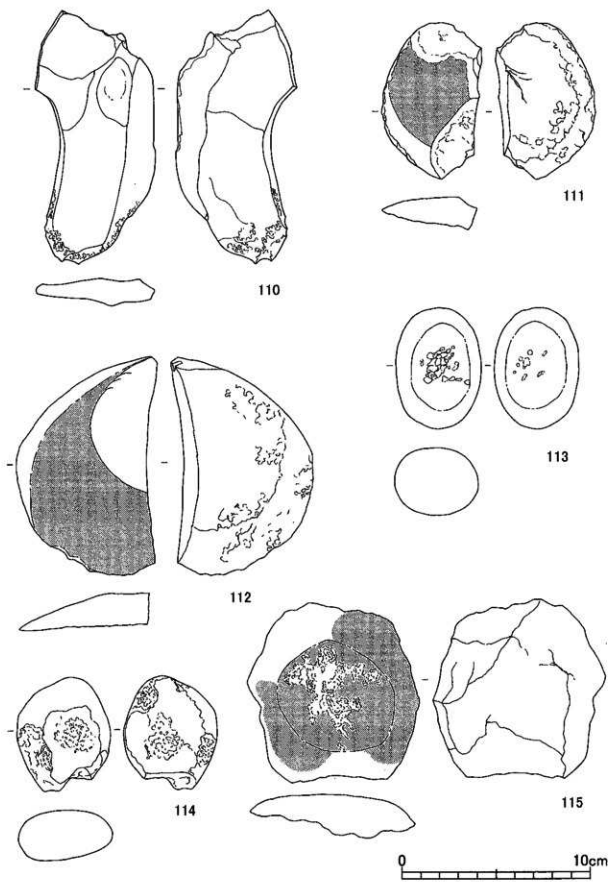
第24图 出土土器(11)



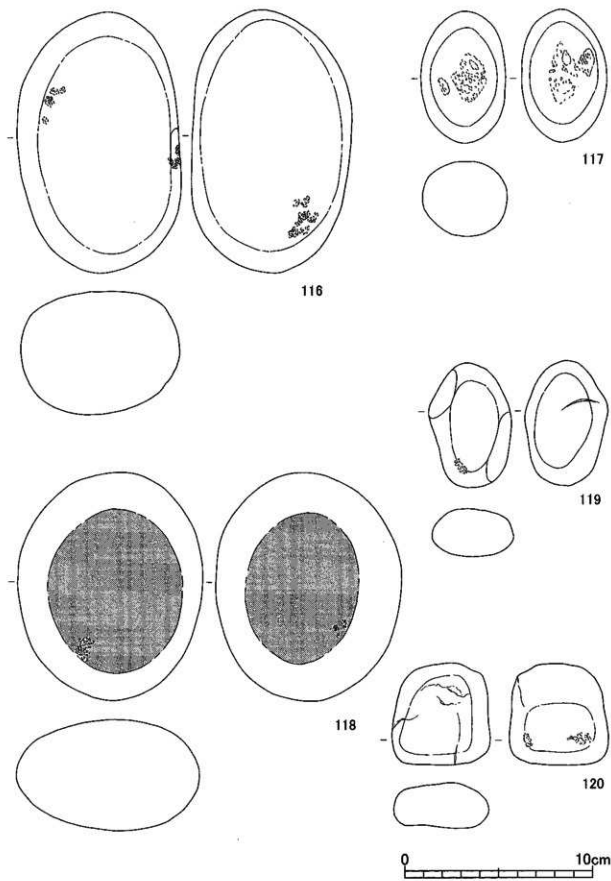
第25图 出土土器(12)



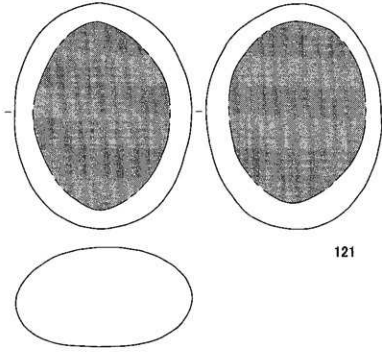
第26图 出土土器(13)



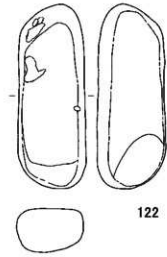
第27图 出土石器(1)



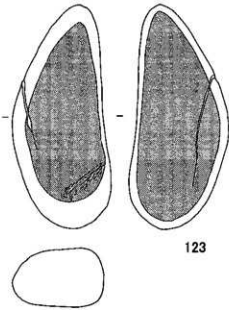
第28圖 出土石器(2)



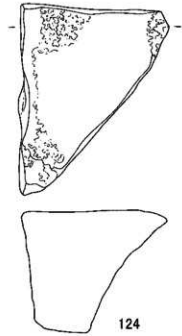
121



122



123



124



第29図 出土石器(3)

第3表 土器観察表(1)

補図 番号	遺物 番号	取上番号	出土区	出 土 層	部位	色調外面	色調内面
35	1	87 337	D-2・3	Ⅲ	口縁部	褐	褐
	2	85 86 一括	D-3 表採	Ⅲ	口縁部	褐	黒褐
36	3	46 51 163 一括	C・D-4	Ⅲ	口縁部	黒褐	黒褐
	4	53	D-4	I	口縁部	明赤褐	褐
	5	48	D-4	Ⅱ	口縁部	黒褐	明褐
	6	224	B-6	Ⅲ	口縁部	黒褐	にぶい褐
	7	300	B-7	Ⅲ	口縁部	黒褐	にぶい褐
	8	81	D-3	Ⅲ	口縁部	黒褐	褐灰
	9	162	C-4	Ⅲ	胴部	明赤褐	明赤褐
	10	238	B-6	Ⅲ	胴部	にぶい褐	黒褐
38	11	184	E-3	Ⅲ	胴部	黒褐	褐
	12	107	D-3	Ⅱ	胴部	褐	褐
	13	113	D-3	Ⅱ	胴部	褐	黒褐
	14	311 312 一括	C-8	Ⅲ	胴部	褐	褐
	15	70	E-4	Ⅲ	胴部	褐	褐
	16	117	D-2	Ⅲ	胴部	褐	褐
	17	118 129 192 一括	D・E-3 表採	Ⅲ	胴部	赤褐	暗褐
	18	346	E-4	Ⅱ	胴部	褐	にぶい黄褐
	19	344	D-4	Ⅲ	胴部	褐	にぶい黄橙
	20	303	B-7	Ⅲ	胴部	明褐	褐
39	21	339 一括	D-4 表採	Ⅲ	胴部	褐	褐
	22	205 281 286 302 316	B-6・7 C-5・6	Ⅲ	胴部	褐灰	褐
	23	57 91 119 123 124 173 186 348 一括	D-2・3・4 E-3 表採	Ⅲ	胴部	赤褐	黒褐
	24	38 84 114 195 一括	C-4・D-3	Ⅱ	胴部	褐	褐
40	25	265 267 327 340	B-5	Ⅲ	胴部	赤褐	褐
	26	96 99 100 101 116	D-2・3	Ⅱ	胴部	明赤褐	黒褐
	27	269	B-5	Ⅲ	胴部	にぶい赤褐	暗褐
	28	101	D-3	Ⅲ	胴部	暗褐	褐
	29	95	D-3	I	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	30	253	B-6	Ⅲ	胴部	褐	褐
	31	268	B-5	Ⅲ	胴部	褐	褐
	32	110	D-3	Ⅱ	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	33	89	D-3	Ⅲ	胴部	褐	黒褐
	34	43 45 47 49 一括	C・D-4	Ⅱ	胴部	黒褐	褐
41	35	54 158 347 一括	C-5 D-3・4 表採	Ⅲ	胴部	褐	黒褐
	36	80 103 121 一括	D・E-3	Ⅲ	胴部	褐	黒褐
	37	82	D-3	Ⅱ	胴部	褐	褐灰
	38	134 136 270 271	B・C-5	Ⅲ	胴部	褐	にぶい褐
	39	166	C-4	Ⅲ	胴部	褐	にぶい黄褐
	40	56 167	C・D-4	Ⅱ	胴部	橙	にぶい黄橙
	41	306	B-7	Ⅲ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙
	42	246	B-6	Ⅲ	胴部	にぶい赤褐	褐
	43	77	E-4	I	胴部	褐	褐
	44	324	C-4	Ⅲ	胴部	にぶい褐	浅黄橙
43	45	143	C-5	Ⅲ	胴部	明赤褐	にぶい黄褐
	46	165	C-4	Ⅲ	胴部	橙	にぶい黄橙
	47	161	C-4	Ⅱ	胴部	にぶい褐	にぶい黄橙
	48	58 227 296	B・C-6 D-4	Ⅲ	胴部	褐灰	にぶい橙
	49	275 279	B-5・6	Ⅲ	胴部	褐	黒褐
50	295	C-6	Ⅲ	胴部	褐灰	にぶい褐	

第4表 土器観察表(2)

挿区 番号	遺物 番号	取上番号	出土区	出 土 層	部位	色調外面	色調内面
43	51	342	A-5	Ⅲ	胴部	明褐	にぶい黄褐
	52	234	B-6	Ⅲ	胴部	黒褐	黄褐
	53	138	C-5	Ⅲ	胴部	褐灰	にぶい褐
	54	277	B-6	Ⅲ	胴部	褐灰	明褐
	55	169	B-4	Ⅲ	胴部	黄褐	褐灰
	56	228	B-6	Ⅱ	胴部	黄褐	にぶい黄橙
	57	151	C-5	Ⅱ	胴部	褐	にぶい黄褐
	58	140	C-5	Ⅲ	胴部	黒褐	明褐
44	59	218 282 291	B・C-6	Ⅱ	胴部	明赤褐	にぶい褐
	60	142 148 197	C-5	Ⅲ	胴部	明赤褐	にぶい黄褐
	61	203 207	C-5	Ⅲ	胴部	明赤褐	褐
	62	288 317	B-6	Ⅲ	胴部	褐	褐
	63	63	D-4	Ⅱ	胴部	明褐	褐
	64	240	B-6	Ⅲ	胴部	明褐	明褐
	65	189	D-3	Ⅲ	胴部	赤褐	赤褐
	66	144	D-5	Ⅲ	胴部	明褐	明褐
45	67	59 230 249 280 350 一括	B-6 E-4・5 表探	攪乱	胴部	にぶい赤褐	黄褐
	68	92 120 131 182 一括	C-5 D・E-3 表探	攪乱	胴部	赤褐	褐
	69	141 198 215 323 341 一括	A・C-5 表探	攪乱	胴部	明褐	にぶい褐
	70	42	C-4	Ⅱ	胴部	黒褐	褐
	71	41 127	C-4 D-3	Ⅱ	胴部	にぶい褐	にぶい褐
	72	111	D-3	Ⅱ	胴部	赤褐	褐
46	73	44	C-4	Ⅱ	胴部	黒褐	にぶい褐
	74	313	C-8	Ⅱ	胴部	褐	暗褐
	75	1	3T	Ⅲ	胴部	赤褐	明褐
	76	293	C-6	Ⅲ	胴部	褐	にぶい橙
	77	222	B-6	Ⅲ	胴部	にぶい橙	にぶい褐
	78	181	E-3	Ⅲ	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	79	225	B-6	Ⅲ	胴部	褐	にぶい黄橙
	80	132	C-5	Ⅲ	胴部	褐	黒褐
	81	130	C-6	Ⅲ	胴部	橙	橙
	82	289	C-6	Ⅱ	胴部	褐	にぶい黄褐
	83	74	E-4	Ⅱ	胴部	褐	褐
	84	97	B-3	Ⅲ	胴部	褐	暗褐
	85	170	B-3	Ⅱ	胴部	明赤褐	褐
	86	319	B-6	Ⅲ	胴部	黒褐	明褐
	87	255	B-6	Ⅱ	胴部	明赤褐	褐
	88	126	E-3	Ⅱ	胴部	赤褐	褐
	89	171	C-2	Ⅲ	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	90	164	C-4	Ⅲ	胴部	にぶい赤褐	にぶい褐
91	294	C-6	Ⅲ	胴部	褐	褐	
50	92	250	B-6	Ⅲ	胴部	褐	明褐
	93	309	C-7	Ⅱ	胴部	褐	褐
	94	201	C-4	Ⅱ	胴部	橙	にぶい黄橙
	95	183 200	E-3	Ⅲ	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	96	137	C-5	Ⅲ	胴部	褐灰	にぶい褐
	97	115	D-2	Ⅱ	胴部	明赤褐	褐
	98	一括	表探	攪乱	胴部	暗褐	褐
	99	168	B-4	Ⅲ	胴部	褐	にぶい黄褐
	100	66	E-4	Ⅱ	胴部	暗褐	にぶい赤褐

第5表 土器観察表(3)

押図 番号	遺物 番号	取上番号	出土区	出 土 層	部位	色調外面	色調内面
50	101	314	C-8	攪乱	底部	褐	暗褐
	102	149 156 一括	C-5 表探	攪乱	底部	褐	褐灰
52	103	93	D-3	Ⅲ	底部	にぶい橙	にぶい黄褐
	104	125 345	D-4 E-3	Ⅱ	底部	赤褐	黒褐
	105	336	B-5	Ⅲ	底部	褐	暗褐
	106	178	D-3	Ⅲ	底部	赤褐	にぶい赤褐
	107	一括	表探	攪乱	底部	褐	黒褐
	108	一括		Ⅲ	底部	赤褐	黒褐
	109	172	D-2	Ⅲ	底部	褐	にぶい黄褐

第6表 石器観察表

挿図 番号	遺物 番号	器種	出土区	取上 番号	出土層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量g	石材
53	110	剥片石器	表採	一括	I	13.0	6.3	1.3	100	貫岩
	111	剥片石器	ET	11	II	8.2	5.0	1.5	60	砂岩
	112	剥片石器	B-5	272	III	11.3	6.9	1.7	170	砂岩
	113	磨石敲石	E-4	60	III	6.4	4.5	3.5	140	砂岩
	114	磨石敲石	D-3	94	III	5.8	4.9	2.5	95	砂岩
54	115	磨石敲石	D-3	102	III	8.8	8.8	2.1	210	砂岩
	116	磨石敲石	D-7	330	III	13.7	8.5	6.3	1080	砂岩
	117	敲石	表採	一括	I	7.0	4.5	4.0	170	砂岩
	118	磨石敲石	6T	13	II	12.0	9.9	5.8	950	砂岩
	119	磨石敲石	B-6	328	III	6.6	4.3	2.5	105	砂岩
	120	敲石	C-6	321	III	5.4	5.3	2.4	115	砂岩
	121	磨石	D-3	83	II	11.9	9.4	5.2	840	砂岩
	122	磨石敲石	D-5	147	III	9.6	3.5	2.2	162	砂岩
	123	磨石敲石	D-5	146	III	11.8	4.9	3.1	285	砂岩
	124	砥石	C-6	219	III	10.0	7.9	6.4	470	砂岩

第V章 調査のまとめ

調査の結果、遺構は土坑が1基検出された。遺構内からの出土遺物は自然礫が1点出土した。検出面や周辺からの出土遺物などから、時期区分では縄文時代中期のものと思われる。掘り込みの深さは数十cmに及ぶ。貯蔵穴の用途としての利用が考えられるが、明確な用途は判断出来なかった。南九州において縄文時代中期相当遺跡の調査では、遺構の検出例は極めて少なく、当遺跡でも同様の結果であった。

出土土器は第Ⅲ層アカホヤ火山灰層（2次堆積物）直上、及び一部アカホヤ火山灰内（2次堆積物）の中から出土している。時期区分でいうと縄文時代中期相当である。種子島においては、縄文時代早期・後期の遺跡が多く、中期の遺跡の報告例は極めて少ない、西之表市においては、下剝峯遺跡・檜ノ峯遺跡・葉山遺跡などから土器片の報告例があるのみである。中期の遺跡数の少なさは、種子島のみだけでなく、南九州全体に言えることである。これは、鬼界カルデラの爆発の影響による、当時の自然環境の大きな変化が大きな要因を占めていると言われている。

本遺跡の出土土器の主体は、器形が胴部中位で少しくびれる特徴を持ち、土器の表面に貝殻施文及びヘラ施文を施す点や、出土層などから縄文時代中期末相当の春日式土器である。

春日式土器は近年研究者により細分化されており、南宮島段階系統・中尾田Ⅲ類系統・並木系統・大平系統と大きく4つに分類されている。この細分はあくまでも時間的堆積であり、系統で各型式がつながるとは考えられているものではない。

出土土器の大きな特徴は、先述したとおり、貝殻施文・ヘラ施文を施している点であるが、各系統においてその施文の比重が若干変化してきている。

南宮島段階・中尾田Ⅲ類についてはヘラ施文より貝殻施文の割合が多いのに対し、並木・大平系統は貝殻施文よりヘラ施文の割合が多い。また並木系統は主に九州西部での出土報告例が多く口縁部周辺はヘラ施文、胴部以降はナデ調整を施すものが主体である。大平系統は九州東南部よりの出土報告例が多く、口縁部下に段状の稜を持ち、ヘラ施文を施すものである。

本遺跡の出土土器は、施文方法・調整痕より中尾田Ⅲ類系統・大平系統の土器である。

中尾田Ⅲ類系統の土器と思われるものは、口縁部片のうち、粘土を外面に貼り付け肥厚させているものは、その範疇に含まれる可能性が高い。口縁部に幅広の低い隆帯を施し、その隆帯上に貝殻復縁を刺突する手法及び口縁部肥厚帯の下面に貼り付け痕をもつ点が大きな特徴であるが、これまで中尾田Ⅲ類系統の完形資料は少なく、全体像を明確に把握できていない。また、本遺跡の出土遺物は胴部片が多く、胴部片だけの形式判断は難しいが（大隅半島での出土報告例があるがいづれも口縁部片だけである）、色調・胎土・焼成などから口縁部片と同一個体もしくは、それに類似する資料と判断した。また九州西部の縄文時代中期末（中尾田Ⅲ類・並木・阿高）は内外面貝殻条痕ののち、ナデ調整を施すものが多く、本遺跡の土器片については、条痕が残るという特徴から、極めて大隅地方から出土した土器片の特徴と類似している。また胎土には火山ガラスが目立つことが挙げられる。

大平系統のものは、口縁部の段状下位に稜を持つという大きな特徴がある。大平式の分布は

宮崎南部から大隅地区で報告例が多く、その出土分布の中心は宮崎県南部である。薩摩半島にも点々と出土例があるものの、本遺跡出土土器片はその特徴から大隅や宮崎のものに極めて近いと思われる。

九州地方における縄文時代中期末の土器片については、東側では条痕が残ることが多い傾向がある。ただしいずれの地域でも全てがナデ、あるいは条痕ではなく一部異なるものが存在する。本遺跡の出土土器片は胴部片が主体であったため、細分化を図ることは極めて困難であった。

波状口縁の土器片については、縄文時代中期前半の深溝式土器を視野に入れることも考えられたが、口縁部内面の貼り付け痕など見ると、どの時期に含めていいのか判断が難しく、他の類例の増加を待って検討していかなければならない。

石器類は、土器と同じく第Ⅲ層アカホヤ火山灰層（2次堆積物）直上、及び一部アカホヤ火山灰内（2次堆積物）の中から出土している。共伴して出土している土器片から時期区分でいうと縄文時代中期相当である。出土した石器は剥片類・磨石・敲石類が出土しているが、土器の出土に比べると出土量は極めて少なかった。磨石・敲石は植物性の食料を加工する際に用いられたと考えられているものである。

今回の調査で、出土遺物の主体である縄文時代中期の春日式土器がまとめて出土したことは、非常に意義深いものとなった。特に種子島においては縄文時代中期の遺物については極めてその資料の数が少なく、出土層など今後の縄文時代中期を考察する上で大きな成果となった。また出土土器の文様の特徴などから大隅半島及び宮崎地方などとの関連性が考えられ、縄文時代中期における南九州東部との交流等について検討できる貴重な資料である。

調査面積は狭少であり、出土遺物及び遺構については、種子島で多数発見調査が行われている縄文時代早期相当の遺跡と比べると非常に少ない。このことは、この地に人々が長期間留まっていたのではなく、時間的には、ほんの短期間だけ留まり、他の地に移動して行ったことが考えられる。

南九州の縄文時代中期相当の遺跡の調査でも同様の傾向が見られ、このことは種子島も含め南九州において、縄文時代中期の時期は人々が長期に渡って同じ地に留まるには厳しい環境であったことが想定される。

参考文献

榎木原遺跡 鹿児島県教育委員会

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（44）1987年

沖田岩戸遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（26）2000年

大坪遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（79）2005年

南田代遺跡 鹿兒島県立埋蔵文化財センター
鹿兒島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (88) 2005 年

上水流遺跡 1 鹿兒島県立埋蔵文化財センター
鹿兒島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (113) 2007 年

上焼田A遺跡・上焼田B遺跡 金峰町教育委員会
金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書 (15) 2003 年

廣田遺跡 南種子町教育委員会
南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書 (15) 2007 年

南九州縄文通信 No.8
南九州縄文研究会 1994 年

縄文時代 第 10 号
縄文時代文化研究会 1999 年

大河 第 8 号
大河同人 2006 年

写真図版



写真図版1 緊急発掘調査状況



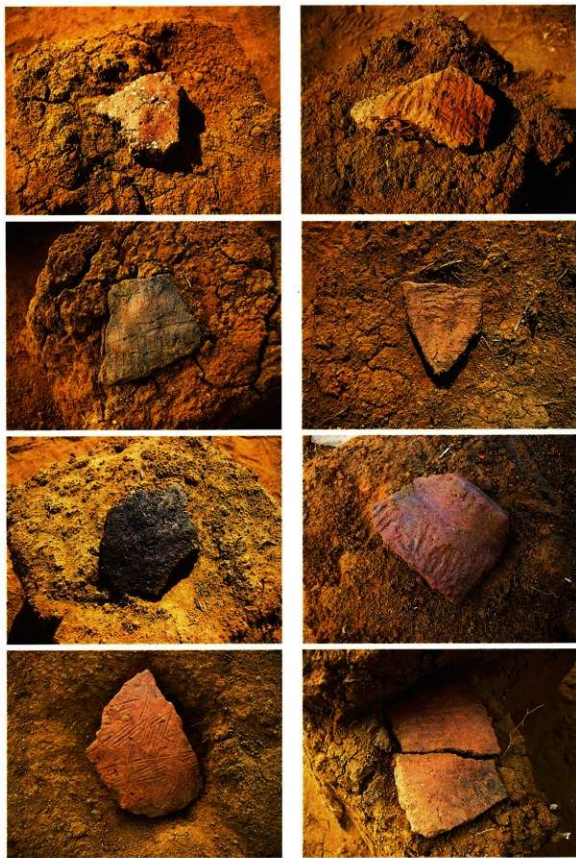
写真図版2 土層断面



写真図版3 土坑検出状況



写真図版4 緊急発掘調査遺物出土状況



写真図版5 遺物出土状況



写真図版6 遺物出土状況



遺物出土状況

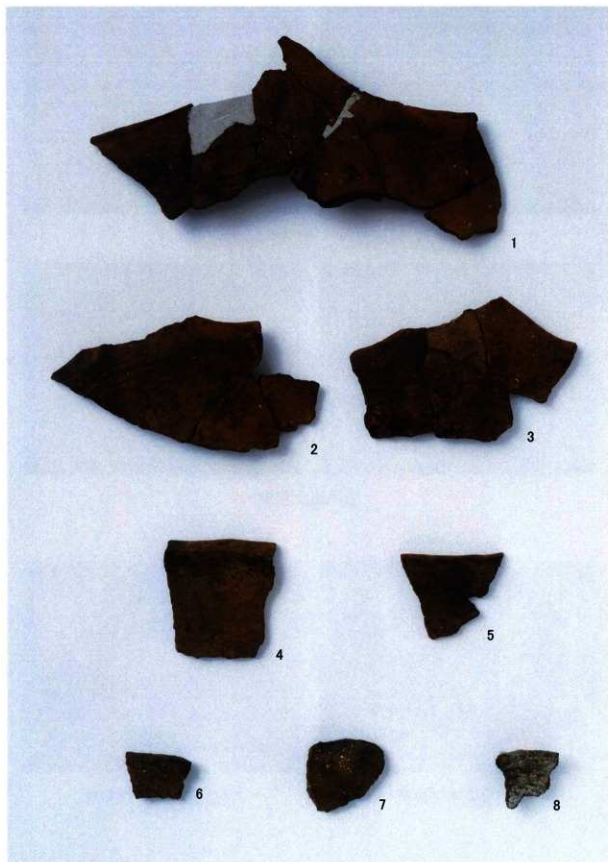


確認調査作業員



緊急発掘調査作業員

写真図版7 遺物出土状況・調査作業員



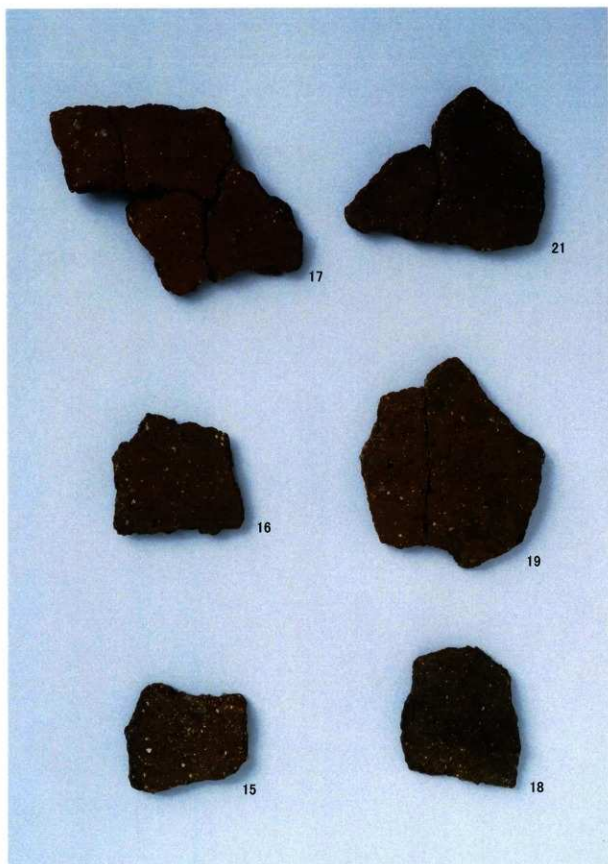
写真図版8 出土土器



写真图版9 出土土器



写真图版10 出土器



写真图版11 出土土器



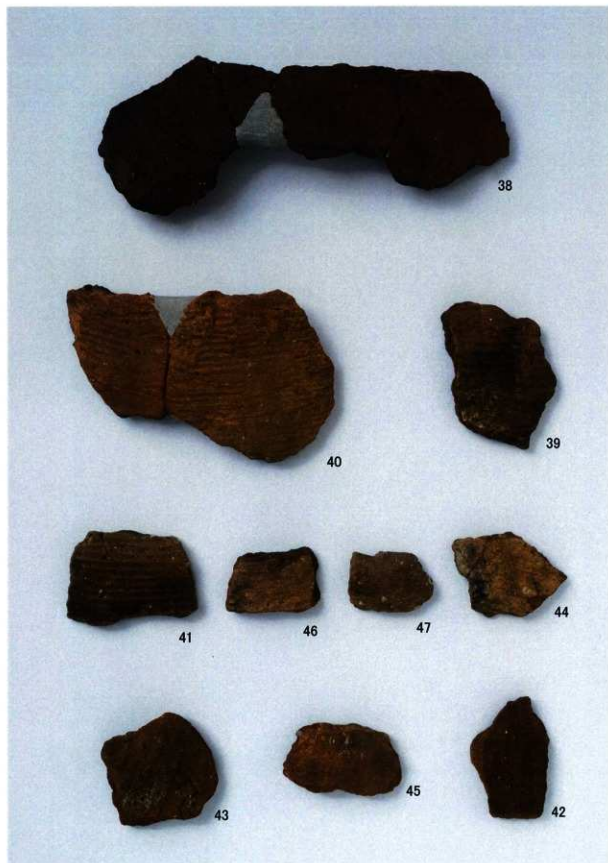
写真图版12 出土土器



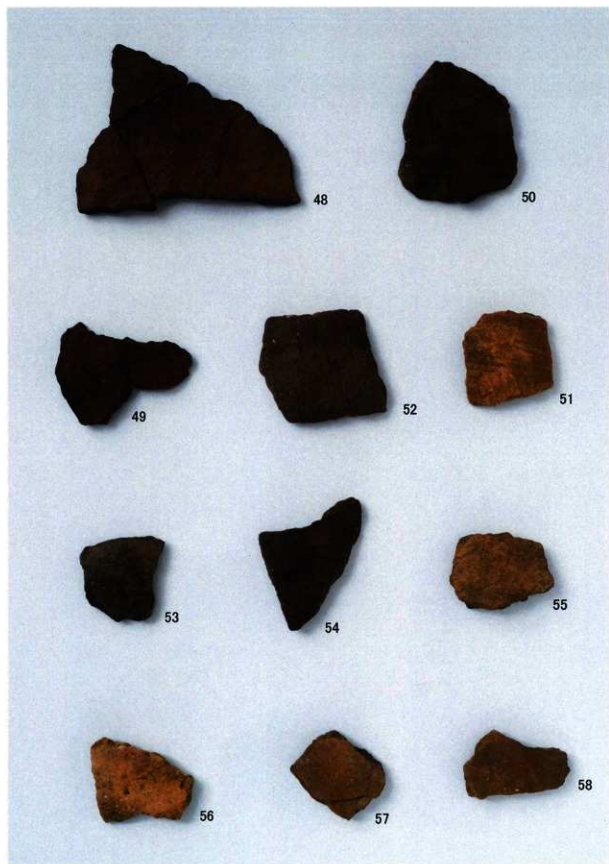
写真図版13 出土土器



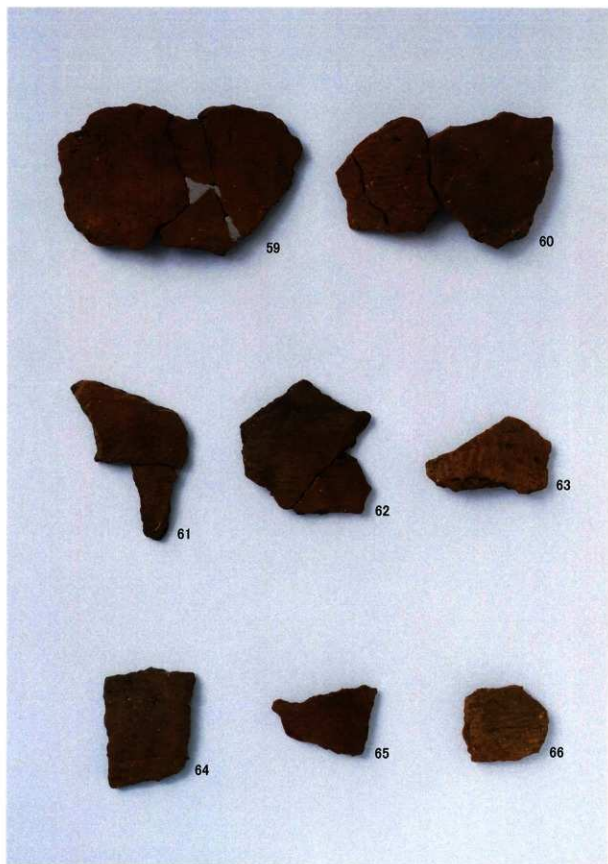
写真图版14 出土土器



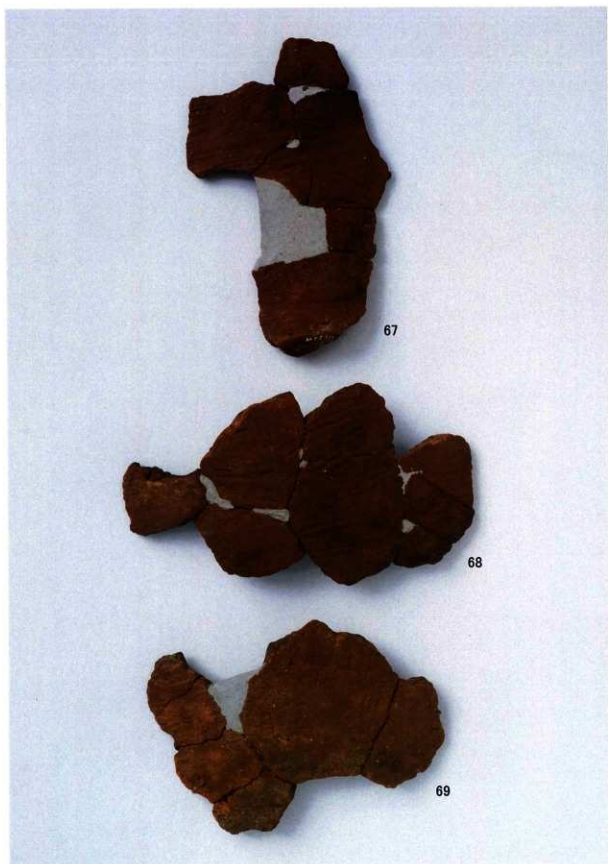
写真図版15 出土土器



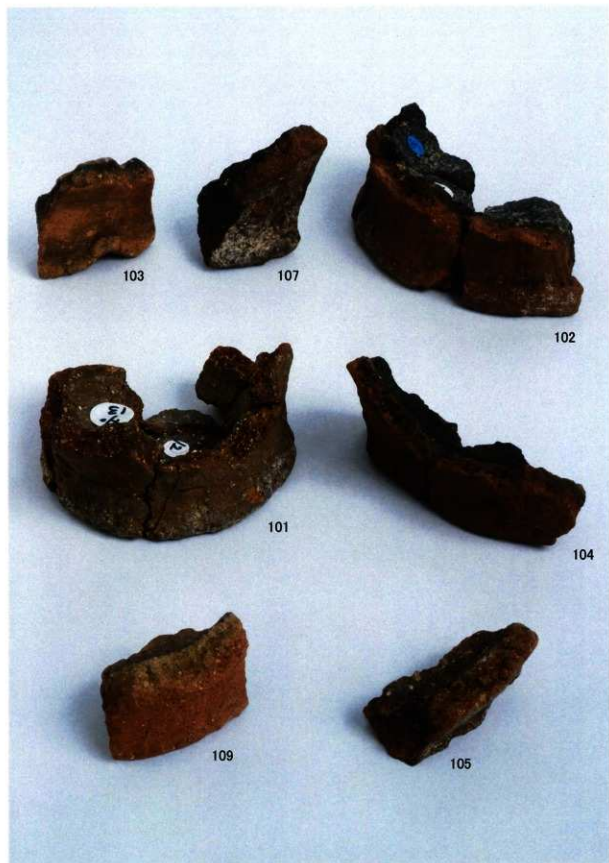
写真图版16 出土土器



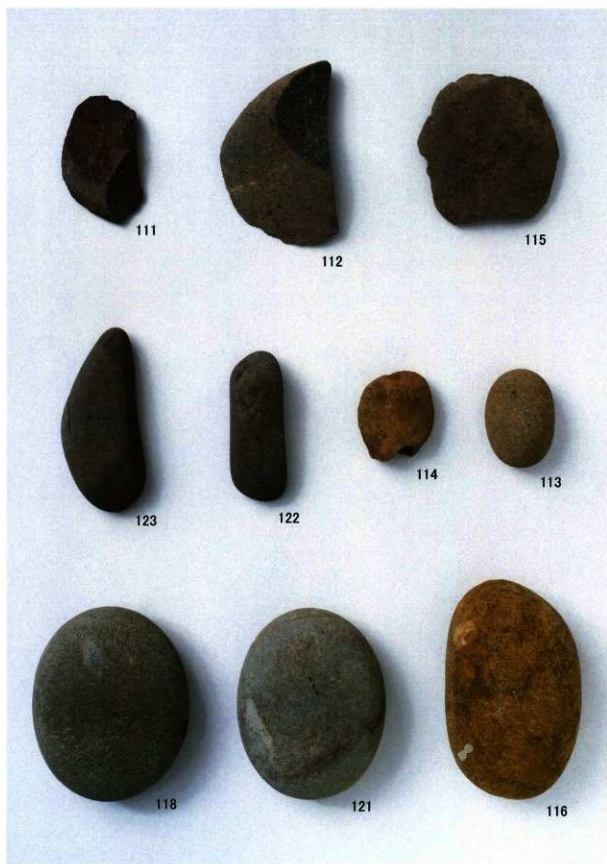
写真图版 17 出土土器



写真图版18 出土土器



写真图版19 出土土器



写真図版20 出土石器

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(23)

広掛遺跡

発行日 平成23年3月
編集・発行 西之表市教育委員会
〒891-3193
鹿児島県西之表市西之表7612番地
TEL 0997-22-1111
印刷 有限会社 種子島新生社印刷
〒891-3101
西之表市西之表16736-1
TEL 0997-22-0476